

高原地域における肉用牛生産の現状と課題(3) : 肉用牛部門の労働時間について

武藤, 軍一郎
九州大学農学部

古沢, 弘敏
九州大学農学部

福留, 功
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/12644>

出版情報 : 九州大学農学部農場研究資料. 8, pp.115-118, 1985-10. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :



高原地域における肉用牛生産の現状と課題

(第3報) 肉用牛部門の労働時間について

武藤軍一郎・古沢 弘敏・福留 功

1. 目 的

肉用牛部門の労働生産性をあげるため、主要な作業項目を調査し、問題点を明らかにする。

2. 材料および方法

1 報、肉用牛生産の経営形態を参照

3. 結果および考察

- 1) 農家単位の飼料作を含めた肉用牛部門の労働時間は、経産牛を10頭飼養するNo.1の3,351時間を最大に、No.17の690時間を最小にした範囲内にある(第1表)。農業総日数に占める割合は、17戸の平均で35.7%である(第2表)。だが、No.1、4、6、11、15、17の6戸は肉用牛部門の労働時間が5割を越えている。一方、肉用牛部門の粗収入が農業粗収入に占める割合は、平均で22.4%と低い。肉用牛部門の所得率は、とりわけ低いので、農業所得に占める同部門の所得率はさらに低くなる。
- 2) 飼養頭数の規模の差を消すため、肉用牛部門に投ぜられた総労働時間を経産牛頭数で割った経産牛1頭当り労働時間は、No.8の191時間を最小に、No.15の960時間を最大に、平均は358時間である。1頭当り労働時間をめぐって、第1に、農家間の格差が大きい、第2に、大部分の農家の労働時間が過大である、第3に、飼養頭数による規模のスケールメリットが弱いということが指摘できる(第1図)。これは、経産牛が10頭以下では、労働生産性を高めるパンクリーナなどの機械、施設が導入されておらず、子牛の高価格を目差し、舎飼いが増大しており、畦畔の雑草給与が含まれたりしていることによっていると思われる。
- 3) 労働時間の65.3%は、給餌、掃除、飲水、手入れなどの飼養管理が占めている。数日おきに行なう稲わら細断(飼料・敷料)、削蹄、分娩の世話、病気の治療などの非日常的管理(ただし、子牛出荷は除く)の平均54時間の大部分は飼養管理に入るので、およそ68%と大きい。したがって、労働時間の省力化は飼養管理の内容の分析によらねばならない。この点については、次の機会に譲る。次に大きいのが稲わら収納の10.5%である。ふん尿処理に要する時間は、6.7%である。機械化、施設化により時間の短縮は可能であるが、経済性を考慮したい。また、堆肥

第1表 肉用牛部門の労働時間

単位：時間

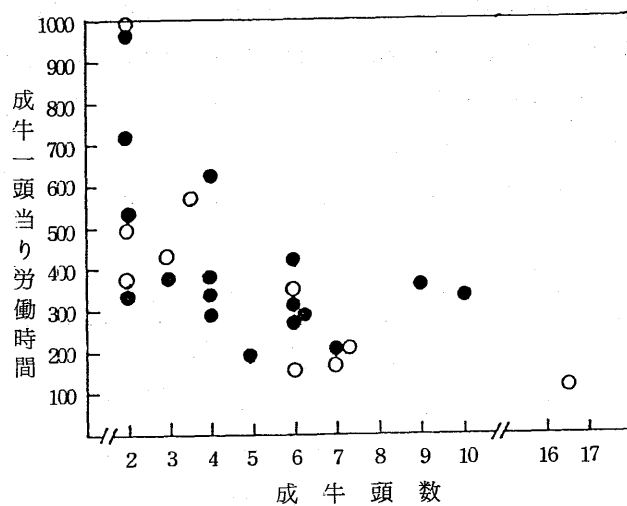
農家 番号	飼養管理	非日常的 管理	ふん尿 処理	稲刈	雑草、畦畔 利用	飼料作 青刈	飼料作物 刈	サイロ詰	その他	計	成牛1頭 当り時間
1	2,342	121	60	448	451	144	45	125	20	3,351	335
2	2,372	137	32	160	30	150	200	128	27	3,236	360
3	784	64	72	182	30	150	—	120	35	1,437	205
4	1,278	44	480	320	30	120	—	168	26	2,460	411
5	1,095	64	96	160	30	80	—	60	15	1,600	267
6	1,095	116	123	320	20	40	—	48	60	1,822	303
7	1,095	56	104	105	—	100	—	192	40	1,692	282
8	479	35	96	190	—	64	30	48	15	957	191
9	802	52	46	152	15	100	140	48	37	1,392	348
10	790	43	36	80	20	100	30	32	36	1,167	292
11	1,907	45	192	168	40	60	—	45	30	2,487	620
12	855	21	126	224	70	50	40	80	35	1,501	375
13	548	19	192	200	40	60	—	48	25	1,132	377
14	730	12	32	160	35	50	—	40	20	1,079	540
15	1,520	27	48	128	60	32	60	35	10	1,920	960
16	1,095	20	32	56	60	90	—	70	15	1,438	719
17	365	36	208	48	—	8	—	5	20	690	345
平均	1,127	54	116	182	31	82	32	76	27	1,727	358
割合(%)	65.3	3.1	6.7	10.5	1.8	4.7	1.9	4.4	1.6	100.0	—

は他部門にとっても価値の高いもので、すべて肉用牛部門に帰属させるのには問題がある。

飼料作、飼料作物の青刈り、サイロ詰に要した時間の合計は11%を占め、頭数が多い農家における割合の方がより大きい傾向にある。この場合の飼料作は、ほとんどがデントコーンであって、頭数規模による飼料作の方法に差が見られない。だが、ハーベスターの導入を数戸の共同で行なえば、飼料作に要する労働時間を短縮し、経済的にも採算に近づくはずである。

第2表 農業全体に占める肉用牛部門の労働日数と粗収入

農家 番号	労働日数		②/①×100	粗収入		④/③×100
	①農業全体	②肉用牛部門		③農業全体	④肉用牛部門	
	日	日	%	万円	万円	%
1	840	418	49.8	892.5	189.4	22.8
2	1,000	404	40.4	1,103.8	282.4	25.6
3	650	180	27.7	957.4	165.5	17.3
4	610	307	50.3	623.5	157.7	25.3
5	430	200	46.5	407.2	149.8	36.8
6	450	227	50.4	502.0	141.3	28.1
7	460	211	45.9	436.1	141.8	32.5
8	500	120	24.0	424.8	95.4	22.5
9	580	174	30.0	571.4	102.8	18.0
10	560	145	25.9	501.7	70.2	14.0
11	600	310	51.7	573.5	122.9	21.4
12	700	187	26.7	363.1	58.0	16.0
13	400	141	35.3	419.0	97.5	23.3
14	600	134	22.3	296.2	26.7	9.0
15	380	240	63.2	406.6	65.7	16.2
16	600	180	30.0	318.1	68.1	21.4
17	120	86	71.7	39.0	28.7	73.6
平均	558	199	35.7	516.2	115.5	22.4



第1図 成牛頭数と成牛1頭当り労働時間